
とある魔術と六道仙人

天上天下唯我独尊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔術と六道仙人

【ISBN】

N7657W

【作者名】

天上天下唯我独尊

【あらすじ】

なぜか、死んでしまった敷田崇雄は、『とある魔術の禁書目録』の世界に神様のちからにより転生した？
彼は、とあるの世界でどう生きるのか？

すべてのはじまり

俺の名前は、 敷田崇雄

今、俺の目の前に（自称）神と名乗るジーサンがいる

「なにが自称じゃーーーーー！」

3 分前

アーティザンだ?

俺の目の前には、なにもない空間が広がっている

「目が覚めたか
・・・」

誰だ？このじーさん？

「聞いて驚け！－ワシは、神じゃう！－」

神?ふうーん・・・・・・・うて神様だとツツツ!?

「大正解？」

「ひでちやつかり人の心読むな！……」

「神様だから許してくれ？きみが、なぜここにいるか教えてあげるからさあ？いいじゃろ！？」

「しゃあねえなあ～で、教えろよ」

「実は……人間を1名別世界に転生することに決まつたんじゃあちゅうど崇雄、きみが死んだのできみに決まつたんじゃあ」

「つて俺死んでるの！？なんで！？」

「それは、いつか分かるそしてきみには、『とある魔術の禁書目録』の世界に行つてもういちなみに、赤ん坊からはじめてもうつ「

赤ん坊からやるのは、いいけど』とある魔術の禁書目録』つて今ままいつたら瞬殺される気が……

「大丈夫じゃ？きみにはあるアニメの技を『教えるから？」

「マジか！？それってなに！？」

「それは、行ってからのお楽しみじゃ？」

ボワン

えつー？

「氣をつけて行ってくれ? ちなみに5歳になつたら前世記憶が戻るからなの? 」

「了解? 」

そして、俺は黒い「六」のみこまれて行つた

「心援してくれる? お、『運命の子』よ 」

第1話開眼（前書き）

あ、こちつが遅れてすみませんでした？
天上天下唯我独尊です？
よろしくお願ひします！！

俺は、転生してからすぐに不幸がだつた・・・

うまれた、家庭はごくごく普通だつた
両親も、優しく幸せだつた、しかしそれは
長続きしなかつた・・・

俺が、5歳の頃両親は買い物に行つていて、
俺は留守番をしていたやけに帰りがおそいな
と思いながら、ニュースを見ていたら速報で
大きな事故が起こつり死者は二人でトラックが
軽自動車に突っ込んだらしい

二人の名前が出てきた

俺は、目の前が真っ白になつた・・・
その二人とは、両親だつたのである

なんでなんだ！？神は、なぜこんな仕打ちをするんだ！？
そこで、俺は、意識を手放した・・・

ここは、どこだ？

目の前には、俺の家が跡形もなくなつていた

俺がやつたのか？

近くに、鏡の破片らしきものがあつたので
それを使って自分の顔を見てみた

「これは…？」

俺の目には、『万華鏡写輪眼』が、写っていた……

第1話開眼（後書き）

ありがとうございました？

やっぱり、小説を書くのは、難しいですね（苦笑）

第2話 外國都市へ（前書き）

今日は、頑張って書きます？

神が言つてたのつて『写輪眼』のことで、両親の死で『万華鏡写輪眼』が開眼したということか . . .

しかも、この万華鏡写輪眼、うちはイタチとうちはサスケの万華鏡写輪眼が合わさつているつてことは絶対失明をしない万華鏡写輪眼か . . .

「父さん、母さん最高のプレゼントをありがとう?」

その後、俺は孤児施設に入つた
しかし、まわりの見る目はバケモノを見るよつだつた
それは、そうだよな . . . 一人で家を破壊したんだから
だが、ここともおさばらする時がきた
学園都市が、俺のウワサを聞きつけ
フードを被つたあやしい人が、迎えにきた
大体、実験台になるんだろうけど . . .
そしたら、アレイスターの所へ時空間忍術で
行つて俺を実験台にすることをやめて貰おうかな . . .
今は、大人しくしよう

「はやく乗れよおクソガキがあ」

なんだよこのムカツくいいかたはーー！
と内心思いながら車にしぶしぶ乗った

1時間後

「Iのフードひざひてえなあお前にせぬよお
と、言ひてこひうちを向こしてフードを投げてきた

「うわねえーよ」神威で、フードを消した

「それがお前の能力か興味深いなあ

「よつやく顔を見れたぜ？？？？お前は？」

「こいつは、木原数多！！たしか一方通行に殺られた研究員？

「なんだよお俺の事知つてんのかあー！？
このままじややばい !

「おー、答えろよお

そろそろ、学園都市にしついたみたいだな . . .

「今度あつたときに教えてやるよーーー！」

「うよつと待てーーー！」

俺は、時空間忍術で、あそこへ向かった

ありがとうございました！！
今回も、短めですが許してください

第3話 晓（前書き）

今日も、頑張ります？

第3話 暁

「ここには、とある窓がないビル……赤い液体が入ったビーカーのなかに男にも女にも、囚人にも聖人にも見える人物がいた……」

「すまないあれを逃した」

「そりか……君は、今すぐ研究所にもどってくれ」

「了解した着いたら連絡する」

ブオン

「あれって俺のことか？」

「きみからきてくれるとは……探す手間がばぶけたよ

敷田崇雄くん」

「はじめまして最強の魔術師のアレイスター……」

「どこまで知ってる？」

「さあ～な」

「その目はなんだ？魔術ではなさそりだか？」

「あんたの知らないいちからだ」

side 崇雄

上手く誤魔化せたな . . .

「そりか . . . で用件は?」

「俺にやひつとしてる実験を中止してくれ! ! !

「いいだろ . . . しかし条件がある」

「なんだ?」

「わたしのもとで、働け」

実験よりマシだからいいや! ! !

「いいだろ! ! ちなみに誰とチームを組むんだ?」

「能力者ではないがある人物と組んで貰ひつ集合場所は、このビルの前だ」

「分かった! ! !

ボン

「面白くなりそうだ . . .

能力者ではない人物って誰だ？検討がつかない……

「よう！！」

「誰だ！？・・・って木原数多！？」

「神様どうかこの人が俺の仲間じゃありませんよ！」――！

「なんだその目は？仲間を見る目じゃねえなこのクソガキッツ！！！やつぱり仲間だつたあ～！！なんでそんなおこつてるんだあ～！！！」

「よくも、俺から逃げてくれたなオイ！――！」

「殺氣だすのやめろよ俺は、一応五歳だぞしかもまわり見てみろ！――！」

「！」

ギロ

「つちしょうがねえなあ～まあよろしく」

「あ、ああよろしく！――ってメンバー俺達だけ？」

「当たり前だろほかに誰がいる？」

「不幸だあツツ！――！ガク

「落ち込み過ぎだろお・・・で、チーム名は？」
「チーム名・・・そだ！」

「暁だ！…」

「暁！？五歳のくせにいにネーミングセンスしゃがる

「だろ…」

「カツコつけんじやねえ～クソガキッ…！」

「ぐつ～ふ、不幸だあ…」

木原のアッパーがさくれつし俺は意識を手放した

第3話 晩（後書き）

ありがとうございました！！

やつぱり難しい・・・

次回は、一気に原作まで飛ばしたこと願つてます！！

第4話超電磁砲（前書き）

今回は、あの原作キャラが出てきますーーー！

第4話超電磁砲

「……おひめさん、さー」

『千鳥流し』

八
おおおーーー

「もしもし俺たののファイルを回収したかど？すれはしい？」

一処分しどけまた盗まれたら厄介だからな夜遅いから
氣をつけて帰れよ崇雄くん（笑）」

木原!!!俺はせんがギシヤなしなんだからやめなよ!!!」

歴代の政治家

あい、切りやがたな！！まあ、いしゃれ、わざ廻分しな、」

一 『火遁豪華球の術』

これでよしと

俺、敷田崇雄が学園都市に来て11年がたち高校1年生

となつた。ちなみに上条当麻と同じ学校で同じクラスであるLeve1は、アレイスターが強引的にLeve16になつた今はLeve16が俺だと気付かれていないから大丈夫だか、いつかスキルアウトにお世話になる気がする . . .

ちなみに暁は相変わらず2人で活動している

そろそろだれか勧誘しようかなあ . . .

暁の仕事のときは、ナルトの世界の暁が着ている衣と
同じ衣を着ているアレイスターに頼んだらすぐにつくりてくれた
ホントにアレイスターには感謝だ!!

今、俺は家に一回帰りカツラーメンを食べてから今散歩している
明日は、学校だけど明日は結構帰りがはやいからなにしてようかな . . .

あれ!?公園でスキルアウト?に女の子が絡まれてる!...よし!..

「おいで!」行つてたんだ!..すみません!の連れがお世話を
掛けましたほら行くぞ!..

作戦成功!!

「あんただれよ!..」

「空氣読め!..」
なんだ!..こつは~

「おじおまえよくもじやましててくれたなあ!..
ただじやすまないぜ!..」

「俺は、あまりたたかいたくないんだ
大人しく帰つてくれない？」

しうがない最近会得した九尾モードをやるか . . .
「イヤだね！！俺達はLevel3のあつまりだ
甘く見られちや困るねえ！！よしあの男に
一斉に攻撃しるぞ！！」

ズツツバン！！

「」の程度か . . . 俺の九尾の手を破れないんじゃ
俺に勝てないぞまだやるか？」

「「「「「いえやりません！！失礼しますーー」「」「」「」「」

「あいつら逃げるのはやああ！！それより君大丈夫？」

「 . . . さい」

「えつ？」

「わたしと勝負しなさいーー！」

「」の発言と「」の制服もじや . . .

「あなたは、Level5御坂美琴さんですか？」

ג' נייר

やつぱり · · 多分逃げてもムダだな · ·

「分かつた！…でも、今日は遅いから今度にしよう！…」

「じゃあアドレス交換するわよほらーーー！」

「はいはい
・・
・」

「それでよしとーー。」

「じゃあまたなー!」

「じゃあね！！」

俺は、九尾モードで闇へと消えた。・・・

「もしもし黒子？敷田崇雄って言う人調べてくれない？」

第4話超電磁砲（後書き）

ありがとうございました！！

原作までにあつた出来事は番外編で書きたいと思います！！

今回も、短くてすみません・・・

第5話四人の友達（前書き）

今回も頑張ります！！

第5話四人の友達

「分からないですってええーーー！」

「すみませんのーーーわたくしの友人で凄腕の子がいるのですが
その子でもダメでしたのーーー」

「あいつに直接聞かなきゃーーーほら行くわよーーー！」

「あのーーーそのわたくしの友人がお姉様に是非お会いしたい
といふので今日会つてくれないでしょーーーか？」

「しょうがないわねえーーーあいつも呼んでいい?
はやく勝負したいしーーー！」

「今調べている殿方ですか?いいですわよーーー
じゃあ集合場所はこの近くのファミレスですの
はやく行きましょーーー！」

．．．

今、俺は上条当麻、土御門元春、青ピヤスと一緒に下校している・・・・

「今日も小萌先生可愛かつたな～そんな小萌先生と毎日の様に一緒に補習してるカミちゃんが羨ましい・・・・」

「今日も補習だあ・・・・俺も変わって欲しい・・・・」

「カミちゃんは、バカだからしうがないにゃ

「不幸だあ・・・・はあ・・・・」

「当麻！！ため息をつくともっと幸せが逃げていいくぞ！！
補習なんて根性で乗り越えろ！～！」

「ちょっと軍霸をパクつてみた！！

「上条さんは、根性なしだからムリです・・・・」

「僕から見ればカミちゃんは天国にいると思つたけど・・・・」

「イヤ地獄だ！～！」

「カミちゃん！～俺は応援してる！～」

「俺も応援してる！～！」

「僕も悔しいけど応援してる！～！」

「みんなありがとう……」

ブルブル

「あ、電話だ！…誰だ………ゲ…」

画面上には、『御坂美琴』と表示されていた！…

「もしもしなのよ、うへ。」

「今空いてる！？」

「ああ…空いてるけど…」

「今から、フューミレスの地図をメールで送りから
そこへ来て…！絶対よ…じやあね…！」

めんどくさい…でも、行つてやるか

「タカやんもしかして彼女からの電話か」やー。」

「まさか崇雄に彼女がいたなんてひどいやん…。」

「僕たちより彼女をつくるなんてひどいやん…。」

「勝手に彼女にするなあ…！あ俺行くよじやあな…。」

「じやあな…！頑張つてこよ～

当麻がなんかいっているけどムシムシ

俺は、美琴がいるフアミレスへと向かつた

第5話四人の友達（後書き）

ありがとうございました！！

Leve15丘原 燐多！？（前書き）

お久しぶりです！！

「遅い！！人を呼び出しどいてなんだ！！」

俺は御坂に呼ばれとあるファミレスにいる
ごが呼んご本人が二年一のござ
ご

なんで俺を呼んどいて遅いんだ！！

呼んだ側にはやめはぐるたゞふくらはぎのうらへ

量達作事モノがないから、
いかに手を空廻作奴まらないが、
·と考えていたらやつときた

「呼んだ本人が遅れてくるてどう言つゝとかな?御坂さん!?」

「だから『メンツ』って言つてゐるじゃない――」

「ハイハイ分かつたよ ・・・ つてお前は！！」

「やつぱりあなたでしたの……あの時はありがとうございました！」やつぱりおした！たしか自己紹介してませんでしたねわたくしの名前は『白井黒子』ですのよろしくお願いしますの……」

「よろしくな！－俺の名前は…」「分かっておりますわ！－敷田崇雄さん－！」

「そ、そ、そ、う、か、！、！、！」

「あんた達知り合いだつたの！？」

「ああ……そんな感じだ……」

「では、さつそく本題に入りますの……あなたのことは調べさせていただきました。しかしあなたの名前、学校名、年齢しかわかりませんでした！！」

イヤな予感が……どうかこの予感がハズレますよ！」……

「あなたの「reve」となぜ隠しているか教えてください……」

ハズレなかつたああ！不幸だああ！

「教えなさいよ……」

ヤバイ……誰かた、助けて……

さあ教えてく……「遅れてしませんでした……」

「タイミングが悪いですよ……初春！……」

いやいや……ナイスタイミングです……
初春さんつつ……つて、初春飾利！？

「白井さんなんだかわからないけどすみません……つてあなたはああ……」

「あつっ……きみは確かあの時白井と一緒にいた……」

「あの時はありがとうございました！あの時あなたがいなかつたらどうなつたか…」

「当たり前のことをしたまでだよ…困った時はお互い様だら…」

「やつですよね…！」

「この子は、わたしへの同僚の『初春飾利』ですの…！」

「『初春飾利』です…よろしくお願ひします…！」

「それでこちらの方が…」

「成り行きできちやいました『佐天凪子』です…ちなみに『e ve e-to de-su…!』

「佐天さん…！」

「俺の名前は、『敷田崇雄』一人ともよろしくな…」

「わたしは『御坂美鈴』よろしくね…！」

「「は、は」」

「それじゃこじやあなんだからゲーセン行こつ…！」

「「えつつ…！」」

「お姉様…常盤台のトップなのですからもつとお上品なご趣味をおもひやになられた方が…！」

「うるさいわねえ！！別にいいじゃない！..」

「さあ、いよいよ始める。」

「じゃあこわがつねうーー黒子もせりーー。」

一
わ、分かりました
・・・
」

• • • • •

「全然お嬢様らしくありませんでしたねえ！！佐天さん！！」

「だよね。意外だつた。あつすみません！」

L

「なに見てるだ御坂?なるほど!-!これがほしいのか・・・・!」

「な、なに言つてるの！…ゲ「タよ…」…こんな爬虫類なんてほしい女の子なんかいないわよ…！」

「俺は、ゲコタなんか言つてないけど？」

۱۱۱۱

「まあクレープゲーセンいく前にクレープたべてくのもいいとおもうけど……」「

「じゃ、しようがないわね……じゃあみんな……」
行くわよ……」「

・・・・・

「なんだこんなにこいつば一人がいるの?」「

「学園都市の見学でしようあそこにもバスがあつますし!」

「やつなんだ!初春さんよく分かったね!」

「それほどでもないですよ!」

「じゃあ俺と御坂と佐天で買つてくるから
白井と初春は席とつといて!……じゃあいくぞ!」

そして、俺、御坂、佐天の順でならんだ

「崇雄さんって」e ve eはなんですか?」

「それがこいつ教えてくれないの!」

「御坂が俺に勝つたら教えてやるよ!」

「じゃあ、あとで勝負よ!」

「別にいいけど時間があつたらな(笑)」「

たしか、このあと強盗と戦つてアンチスキルの取り調べを受けるからムリだろ？けど……

とおもつていたら俺の順番がきた

「最後のゲコタストラップです……どつぞ……？」

ドォン

「わたしのゲコタ……

ショウがないなあ……

「やるよ俺いらぬから……」

「本当……？ ありがとう……」

といいながら俺の手を握つてきた

どんだけゲコタが好きなんだ……後ろの佐天も苦笑いしてるぞ……

といつことでゲコタ事件？ も終わつてみんなでクレープをたべている

「このクレープつまいなああ……」

「うちも美味しいわよ……食べる？」

「喜んで……」

俺はこの時気づかなかつた．．．白井の怒りに触れることをしたといつことを．．．

「ホントにひちもうまこなあ！－！」

「でしょ！－！」

「あ、あ」

「どうした白井？俺になんかついてるか？」

「よくもお姉様と間接キスをつつ！－！」

「あつ！－！／＼／＼」

し、しまつた！－！

白井は足につけている武器を俺にテレポートさせてきた

しょ「うがない．．．

「えつ！－？」

ほかの三人もおどろいているまあ当たり前か

「なんでわたくしの武器がすり抜けるのですか！－？そしてその赤い眼は！－？」

「簡単だ俺の能力で俺の肉体を時空間に飛ばしただけだ。」

「そんなことが出来るのなら」eve15よーーー

ドオゴンーーー

「なにーー？」

始まつたかーーよしそく終わらせんーー

「銀行強盗ですのーー」

「よしーーわたしがーー」

「ダメですーーお姉様は一般人ですーーこれわたくし達の仕事ですーーつて崇雄さんーー」

「お前一人か？」

「ああーー一人だーー」

「おかしいーー原作では三人だつたはずーー

「じゃあさつそくだか死んで貰おうかーー」

銀行強盗は、大きな炎の玉を投げてきた

「この炎の玉」eve13ビンゴじゃないーー

Leve15ぐらいだーー原作ではeve13だったのにーーしかし

「『水遁水龍弾』ーーー」

普通の炎だつたら消えて水龍弾が銀行強盗にあたるはずだつたしかし

「なに！ 消えるぞ」 とかさつきと比べ物にならないぐらいに大きくなつてゐる……」

「さつきの水の龍を見たかぎり」 level5か
でも9人名もいたんだな・・・残念だが終わりだ！！」

「崇雄さん……！」

神威

ブウオン

「炎の玉が消えた・・・あいつてなにものなの?」

——な、なに！？

「お前の炎は厄介だな……」

「お前は誰だ！？」

「そういう點は、お前から知乗るじゃないのか？」

「 そ う だ な ！ ！ 俺 は 」

5 第八位 『丘原 燎多』 だ！！』

Levele 5 丘原 燐多ー！？（後書き）

ありがとうございますー！

黒子の口調は難しい．．．

主人公の設定（前書き）

お久しぶりです！！

色々あって更新が遅れましたごめんなさい・・・

ここでは、主人公の設定を書きたいと思います！！

主人公の設定

名前・敷田崇雄

しきだたかお

特徴：顔は、NARUTOの弥彦でイケメンの部類細マッチョで普段は制服でごしている

性格：心優しく友達思いしかし、暗部の仕事になると躊躇なく人を殺す（どうしようもないほど悪い奴のときだけ）自分は、鈍感ではないと思っているが実はちょっと鈍感

能力：永遠の万華鏡写輪眼・・・NARUTOの歴代の万華鏡写輪眼開眼者の能力を使える

九尾の力・・・自身の中には九尾からもうう力。九尾とはいっては親友

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7657w/>

とある魔術と六道仙人

2012年1月14日15時48分発行